

日本鳥学会ポスター賞これまでの受賞者

2018年9月18日更新

2018年度 受賞

《生態・行動》分野

○清水拓海(慶應義塾大学)・夏川遼生(横浜国立大)・湯浅拓輝(慶應義塾大学)・一ノ瀬友博(慶應義塾大学)・黒田裕樹(慶應義塾大学)

「トラフズクのペリットに対するメタバーコーディング技術の応用」

《保全・形態・遺伝・生理・その他》分野

○青木大輔(北大院・理)・松井晋(東海大・生物)・永田純子(森林総研)・千田万里子(山階鳥研)・野間野史明(総研大・先端科学)・高木昌興(北大院・理)

「絶滅した自然集団のDNAから生物が新しい集団形成を可能にする条件を探る」

2018年度 次点

《生態・行動》分野

○榊原貴之(岩手大・院)・野口将之(魚鷹研究チーム)・吉井千晶((株)建設技術研究所)・東淳樹(岩手大・農)

「巢内カメラを用いた内陸ミサゴの餌内容解析 ―外来魚利用の実態―」

《保全・形態・遺伝・生理・その他》分野

○佐藤一海・向井喜果・鎌田泰斗(新潟大・院・自然科学)・森口紗千子(日獣大・獣医)・関島恒夫(新潟大・農)

「風車への衝突リスク低減を目指したオオヒシクイの三次元的センシティブティマップの提案」

2017 年度 受賞

《生態・行動》分野

○西條未来・沓掛展之（総研大・先導研）

「チドリ目における対捕食者行動の決定要因: 種間比較による検討」

《保全・形態・遺伝・生理・その他》分野

○向井喜果（新潟大・院・自然科学）・安藤温子（国立環境研究所）・布野隆之（兵庫県立人と自然の博物館）・関島恒夫（新潟大・農）

「DNA バーコーディング法と安定同位体比分析を組み合わせたオオヒシクイの食性解析」

2016 年度 受賞

《生態・行動》分野

○加藤貴大, 沓掛展之(総研大・先導科学)

「スズメにおける胚の性特異的死亡：生理的・生態的要因の解明」

《保全・形態・遺伝・生理・その他》分野

○松下浩也, 土岐田昌和(東邦大・理)

「鳥類における弁足の進化とその形成機構～バンとオオバンの胚発生の比較から～」